

立教大学コミュニティ福祉研究所学術研究推進資金

企画研究プロジェクトⅠ(教員・学生参加型) 2023年度研究成果報告書

プロジェクト 学生代表者	学科・学年	氏名
	福祉学科・4年	神田幸奈
指導教員	所属・職名	氏名
	福祉学科・教授	後藤広史
研究課題	映像資料の活用による「子どもの貧困」の解決に向けて ～フードバンクの活動から～	
研究年度	2023年度	
プロジェクト 分担者	柴谷涼、磯衣吹	

プロジェクトの内容及び成果の概要

本プロジェクトは、子どもの貧困問題の解決を目的として、その現状を社会に分かりやすく伝え影響を与えるために、フードバンク活動を取り入れて視覚的な映像を作成した。映像を作成するにあたり、3年時の相談援助演習のクラスで貧困問題について理解を深めた。また2023年3月に本作品のフィールドであるフードバンク岩手に訪れ、活動概要の把握を行うとともに、代表者である阿部氏と交流した。上述のクラスにおいて、フードバンクに関する研究報告を行い、その際にはフードバンク山梨でのフィールドワークやフードバンクの知名度等に関する調査も行った。2023年3月6日と8月2日にフードバンク岩手、9月5日に三芳おなか子ども食堂に訪問し、撮影・インタビューを行った。9月から11月にかけて動画編集を通してプロジェクトのまとめを行った。

作品は、①イントロダクション、②フードバンクや地域で行われている活動、③エンディングの3構成からできている。

- ① イントロダクションにおいては、日本における子どもの貧困問題の現状に関する理解を促すとともに、本研究のテーマである「食」を通じた支援の必要性を伝えている。3つのパートで構成されており、一つ目に日本の貧困状況について数字で理解できるパート、二つ目に日本における貧困状態がどのような場合を示すのかを理解できるパート、三つ目に一つ目と二つ目を用いて、視聴者ができることを自発的に考えさせるパートからなっている。
- ② フードバンクや地域で行われている活動においては、フードポストを通じて地域の子どもの食料が提供されるまでの過程を実際にフードバンクや子ども食堂にて撮影した映像を用いて表した。フードバンク岩手では、農家などの生産者や企業からの印字ミスや規格外等の理由で食べられるのに売ることのできない食品や、賞味期限が切れていないのにも関わらず、余っている食品を市民からの寄附により回収し、それを行政や社会福祉協議会を通じて生活に困窮している人へ渡しているため、その様子を簡略的に表して説明した。
- ③ エンディングにおいては、子どもの貧困問題の解決に向けて、福祉に関心を持ち始めたばかりの人にはできることは何か考えさせることとした。一つ目に最も伝えたいことを直接的な表現で伝え、二つ目に協力してくださった方々を紹介し、最後に映像を見た人に行動してほしい形として、検索している様子を表した。

このビデオを通じて支援をすることに対して積極的に行動する人が増えると考えている。